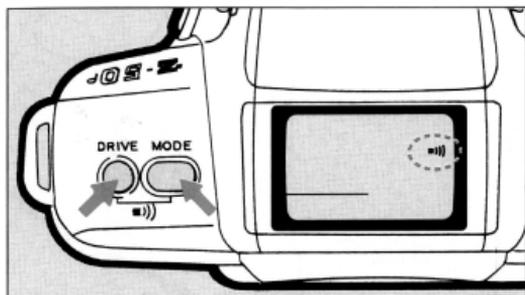


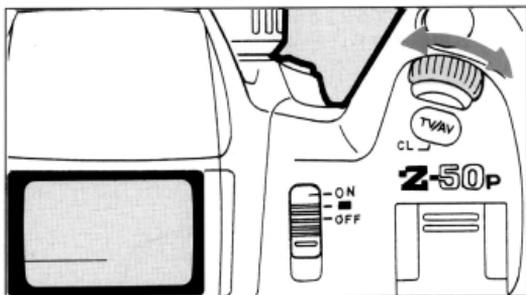
(7) 電子音を消します

1



1. モードボタンとドライブボタンを同時に押して、表示パネルの表示を  表示のみにします。

2



2. モードボタンとドライブボタンを押したままセレクトダイヤルを回して、表示パネルの  表示を消します。

* この状態では、ピントが合っても電子音は鳴りません。

* 電子音を鳴らすには、同様にセレクトダイヤルを回して表示パネルに  を表示させます。

応用的な使い方

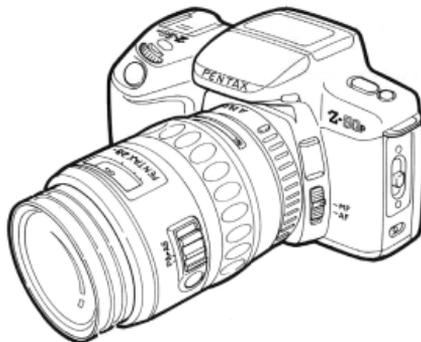
59

(8) パワーズームの拡張機能

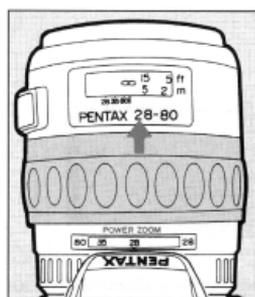
FAズームレンズをZ-50pと組み合わせると、次のオートズーム機能を使うことができます。

FAズームレンズ以外では、オートズーム機能は使えません。

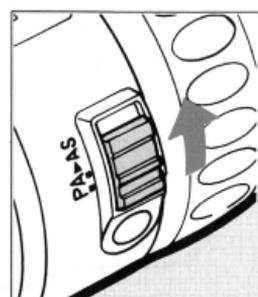
- ①ズームクリップモード
- ②イメージサイズ指定モード
- ③露光間ズームモード



1



2



オートズーム機能を使うための準備

1. レンズのズームリングを前側に押し出すようにして、図のように **POWER ZOOM** が見える状態にします。

* 工場出荷時は、この状態です。

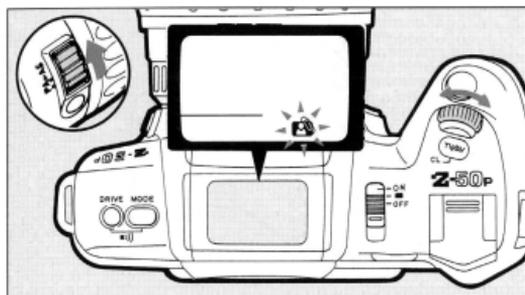
2. レンズのオートズームスイッチを **A** (一部レンズでは **AZ**) に合わせます。

* これで、各種オートズーム機能が使える状態になります。各機能の使い方については、それぞれのページをご覧ください。

応用的な使い方

60

1



①ズームクリップモードの使い方

ズームクリップモードは、カメラに焦点距離をあらかじめ記憶させておくことで、必要なときにボタン一つでその焦点距離を呼び出す機能です。

例えば、動きの激しいスポーツ写真で、予測される場面の撮影範囲(焦点距離)を記憶させておけばシャッターチャンスをつかむのに有利になります。

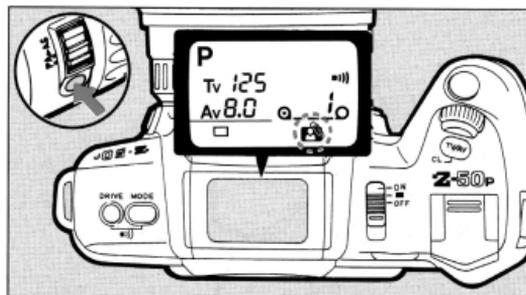
2



1. レンズのオートズームスイッチを **[AS]** (一部レンズでは **[MODE]**) 側に押し付けたままセレクトダイヤルを回して、表示パネルに **[Z]** マークを点滅させてください。
* ズームクリップモードを解除するときは、オートズームスイッチを **[P]** (一部レンズでは **[PZ]**) に戻してください。
2. ファインダーを覗きながら、ズームリングを回して、好みの撮影範囲(焦点距離)に合わせます。
* このとき、自動的にピント合わせも行われます。ただし、**[Z]** マークと合焦音は出ません。

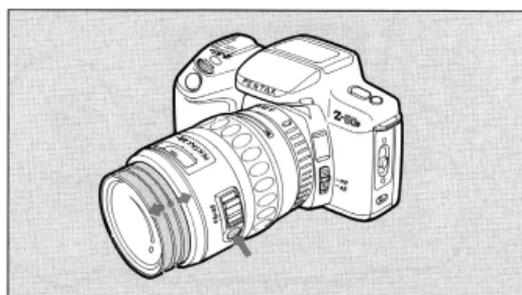
⑥1

3



3. レンズのズームセットボタンを押すと、表示パネルの **[Z]** マークが点灯に変わり、焦点距離が記憶されます。
* 新たに焦点距離を記憶させた場合は、前の内容は消えてしまいます。
* 電源スイッチを **[OFF]** にしても、記憶した内容は消えません。なお、電池を入れ直すと記憶していた内容は消えてしまいますのでご注意ください。
* 電源スイッチが **[ON]** または **[]** のままレンズを外したり、レンズの交換をすると記憶している内容が消えてしまいます。記憶した内容を残したい場合は、電源スイッチを **[OFF]** にした状態で行ってください。

4



4. ズームセットボタンを押すと記憶した焦点距離になりますので、シャッターボタンを押して撮影をしてください。
* ズームセットボタンを押すと自動的にピント合わせも行われます。ただし、**[Z]** マークと合焦音は出ません。

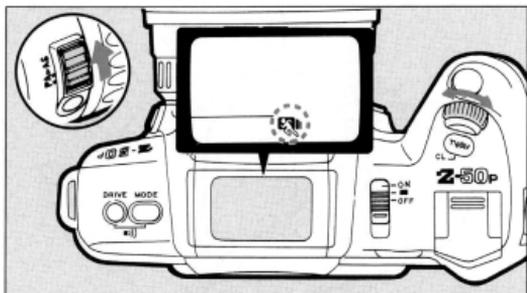
⑥2

②イメージサイズ指定モードの使い方

ファインダーを覗きながら構図を決め、そのときのイメージサイズ[撮影倍率]をカメラに記憶させることによって、撮影距離が変わっても常に記憶させたイメージサイズ[撮影倍率]になるように、カメラが自動的にズーミングする機能です。

例えば、近づいたり遠ざかったりする子供を、同じ大きさで撮影することができます。

1



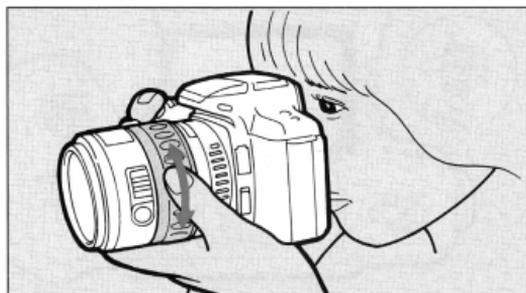
1. レンズのオートズームスイッチを **AS** (一部レンズでは **MODE**) 側に押し付けたままセレクトダイヤルを回して、表示パネルに  マークを出します。

* フォーカスモードレバーが **MF** になっていると、イメージサイズ指定モードは使えません。

応用的な使い方

63

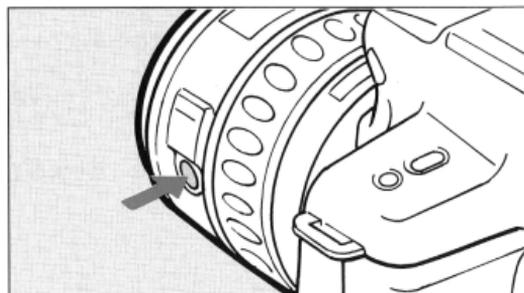
2



2. ファインダーを覗きながら、ズームリングを操作して好みの位置までズーミングします。

* このとき、自動的にピント合わせも行われます。ただし、 マークと合焦音は出ません。

3



3. レンズのズームセットボタンを押すと、その時点のイメージサイズをカメラが記憶します。

* このとき「ピピッ」と音がして、イメージサイズが記憶されたことを知らせます。

応用的な使い方

64



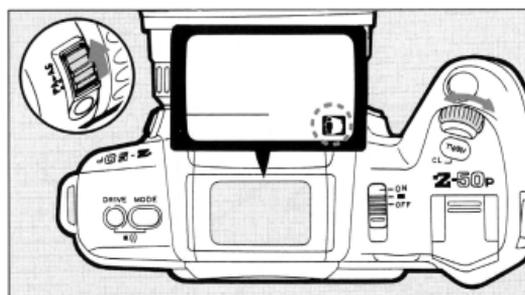
4. シャッターボタンを半押しすると、撮影距離が変わっても被写体の大きさが一定になるように自動的にズームします。ズームが終了してからシャッターボタンを押し切って撮影してください。
- * イメージサイズ指定モードを解除するときは、オートズームスイッチを **P** (一部レンズでは **PZ**) に戻してください。
 - * ズーム中にシャッターボタンを押し切ってしまうと、指定したイメージサイズになりません。シャッターボタンは、ズームが終了してから押し切ってください。

- * 撮影距離が近すぎたり遠すぎたりすると、ズームレンズの焦点距離の作動範囲を超えてしまい、指定したイメージサイズになりません。また、他のレンズに交換した場合も、前のレンズで記憶したイメージサイズで制御されますので、指定したイメージサイズにならない場合があります。
- * イメージサイズ指定モードのときにフォーカスモードレバーを **MF** に切り替えると、ズームクリップモードに切り替わります。
- * 電源スイッチを **OFF** にしても、記憶されている内容は消えません。
- * 電源スイッチが **ON** または  のままでレンズを外したり、レンズ交換をすると記憶している内容が消えてしまいますので、記憶した内容を残したい場合は、電源スイッチを **OFF** にした状態で行ってください。
- * 新たにイメージサイズを記憶させると、前の記憶内容は消えてしまいます。
- * イメージサイズを決めるときには、使用するズームレンズの中間付近に焦点距離を設定すると、利用範囲が広がり使い易くなります。例えば、焦点距離が28~80mmのレンズでしたら焦点距離を50mm付近にすると便利です。
- * 電池を抜くと記憶している内容は消えてしまいますので、ご注意ください。



③ 露光間ズームモードの使い方

露光間ズームは、シャッターを開いて露光を行なっている間に広角側から望遠側にオートズームすることによって、被写体映像の芯をとらえながら、輪郭を放射方向に流した写真を作ることができます。



1. レンズのオートズームスイッチを **AS** (一部レンズでは **MODE**) 側に押し付けたままセレクトダイヤルを回して、表示パネルに **D** マークを出してください。
- * 露光間ズームモードを解除するときは、オートズームスイッチを **P** (一部レンズでは **PZ**) に戻してください。
- * プログラムシフトを行なっているときに露光間ズームに切り換えると **Tv** と **Av** マークの上の  表示は一時的に消えますが、シフト量はそのまま記憶されています。



2. ズームリングを操作し、撮影意図に合うような広角側の焦点距離にしてください。

- * 焦点距離が最も望遠側になっている場合は、望遠側から広角側にズームされます。
- * 露光間ズームの効果を出すために、なるべくシャッター速度が遅くなるように露出を決めてください。
- * プログラム自動露出では、できるだけシャッター速度が遅くなるように露出が決定されます。
- * シャッターを切ってから、オートズームが行なわれるタイミングは、そのときのシャッター速度の半分の時間が経過するまではズームしないで、後半[シャッター速度の残り時間]でオートズームを行ないます。例えば、シャッター速度を1秒に設定すると、シャッターを切ってから0.5秒間はズームしないで、後半の0.5秒間だけオートズームを行ないます。

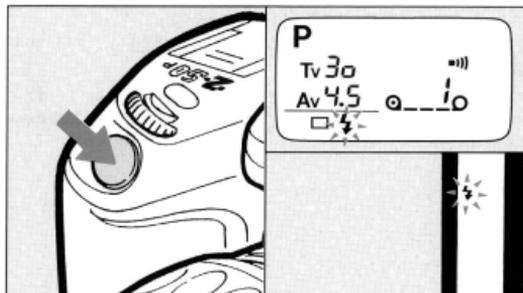


3. シャッターボタンを押し切ると、そのときのシャッター速度に応じて露光間ズームを行ない撮影します。

- * シャッター速度が速いと、ズームする時間が短くなり、ほとんどオートズームされないので、露光間ズームの効果は得られません。例えば、28～80mmレンズの場合に28mmから80mmまでオートズームするのに約1秒かかりますので、シャッター速度を2秒以上に設定しないと28mm～80mmまでのズームはされません。なお、シャッター速度を遅くしすぎると、ズーム終了後もシャッターが開いているため、被写体の芯が2つできることになります。
- * ズーム比をあまり大きくすると、全体にまとまりの悪い写真になりやすいのでご注意ください。
- * 露光間ズームモードでは、パワーズームの最大速度でズームを行ないます。
- * 露光間ズームは低速シャッターで撮影しますので、三脚などの利用をお勧めします。

(9) 内蔵ストロボを使います

1

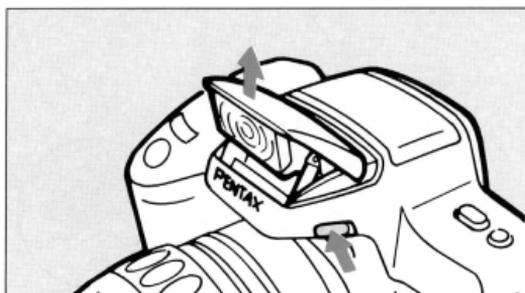


Z-50Pの内蔵ストロボは、周りが暗いときや、逆光のときなどに、周りの明るさに合わせて、シャッター速度と絞りが組み合わされますので、簡単にストロボ撮影ができます。

1. プログラム自動露出にしてシャッターボタンを半押しします。

* 周りが暗いときや逆光のときは、表示パネルの  とファインダー内の  が点滅して、ストロボの使用を勧めます。

2



2. ストロボスイッチを押して、ストロボを上へ飛び出させます。

* 充電が自動的に始まり、充電が終わると表示パネルに  が表示されます。シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内にも  が表示されます。

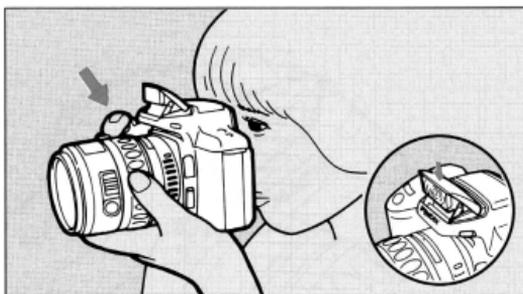
* ストロボ充電中は、シャッターは切れません。

* プログラムシフトを行なっているときに内蔵ストロボを飛び出させると、TvとAvマークの上の  表示は一時的に消えますが、シフト量はそのまま記憶されています。

応用的な使い方

69

3



3. シャッターボタンを押し切ってストロボ撮影をします。

* シャッター速度は、1/100秒～1/30秒まで変化します。なお、シャッター速度の低速限界はご使用レンズの焦点距離によって変化します。ただし、Aレンズ以前のレンズ使用時は1/100秒固定となります。

* プログラム自動露出では、セレクトダイヤルを回すことによりプログラムシフトを行い、シャッター速度と絞りの組み合わせを変えることができます。シフト可能な範囲は、シャッター速度が1/100秒以下で絞りが連動する範囲内です。ただし、低速シャッターになることがありますので手ぶれにご注意下さい。

* 撮影後、内蔵ストロボは矢印部分を押し込んで収納してください。

70

シャッター優先自動露出を使うとき

1/100秒以下のシャッター速度を自由に調節してストロボ撮影ができます。

シャッター優先自動露出のときは、周りの明るさに合わせて自動的に絞り値が変化しますので簡単にストロボ撮影ができます。

応用的な使い方

絞り優先自動露出、マニュアル露出を使うときピントの合う範囲[被写界深度]を変えて撮影したいときや撮影距離を遠くしたいときなどに、絞りを自由に調節してストロボ撮影ができます。

絞り優先自動露出のときは、周りの明るさに合わせて自動的にシャッター速度が変化しますので簡単にストロボ撮影ができます。

*絞り優先自動露出では、シャッター速度が1/100秒～1/30秒まで変化します。なお、シャッター速度の低速限界はご使用レンズの焦点距離によって変化します。ただし、Aレンズ以前では1/100秒固定となります。

使用絞りから撮影距離を計算します

遠距離側の目安 $G N \div$ 使用絞り
 近距離側の目安 遠距離側目安 $\div 5$
 ただし、0.7m以下の距離では使えません。
 ※GN=ガイドナンバー

撮影距離から使用絞りを計算します

$G N \div$ 撮影距離 = 使用絞り

計算で出た数字が「3」のようにレンズの絞り値にない値になったときは、一般的に数字の小さい方[2.8]にします。なお、GNは使用するフィルム感度[ISO]により下の表のようになります。

ISO25 → GN6.5	ISO200 → GN18
ISO50 → GN9.2	ISO400 → GN26
ISO100 → GN13	

ここでISO100のフィルムを絞りF4.7で使うときの例をあげます。

ストロボの撮影距離範囲を計算します

$$GN13 \div F4.7 = 2.8m$$

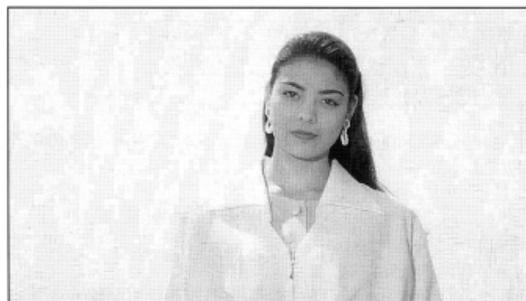
$$2.8 \div 5 = \text{約}0.56$$

従って、約0.7mから2.8mの範囲でストロボが使えます。

71



ストロボなし



ストロボ使用[日中シンクロ]

72

日中シンクロについて

プログラム自動露出、シャッター優先自動露出では、シャッター速度、あるいは絞り値が周りの明るさによって変化しますのでそのままストロボ撮影をするだけで簡単に日中シンクロができます。ただし、シャッター速度が1/100秒を超えるような明るさでは、背景が露出オーバーになりますのでご注意ください。

*背景が明るい場合には、露出オーバーになることがあります。



低速シンクロについて

露出モードは、マニュアル露出とシャッター優先自動露出が使えます。

マニュアル露出の場合

1. ストロボスイッチを押して、ストロボを飛び出させます。
 2. マニュアル露出にします。
 3. 適正露出になるように適当なシャッター速度と絞りを選んでください。
 4. 撮影します。
- * 「1」の操作は、どの時点で行なっても結構です。

シャッター優先自動露出の場合

1. シャッター優先自動露出にします。
 2. 好みのシャッター速度を選びます。
 - * 表示パネルとファインダー内の絞り値表示が点滅していると背景に対して適正露出になりませんので、点滅がなくなるシャッター速度を設定してください。
 3. ストロボスイッチを押して、ストロボを飛び出させます。
 4. 撮影します。
- * 低速シンクロの場合は、カメラぶれを防ぐため三脚をご使用ください。

73

(10) 外付けストロボの使い方

カメラの内蔵ストロボではパワーが足りないときは、外付けストロボを利用してください。[結婚披露宴やパーティーなどで便利です]



TTLオートモード付きストロボを使います。

1. カメラのホットシューカバーF_Bを外し、ストロボを取り付けます。

74

2. ストロボのモードをTTLオートにします。カメラの撮影モードは、プログラム自動露出、絞り優先自動露出のいずれかにセットします。
3. ストロボの電源スイッチを入れます。
4. ストロボの充電完了を確認します。ストロボの充電完了ランプが点灯すると、カメラのシャッターボタンを半押ししたときに、ファインダー内の  が点灯しますので、ファインダーでも充電完了の確認ができます。
- * 充電が完了すると、シャッター速度は周りの明るさによって、1/100秒～1/30秒に切り替わります。
- なお、シャッター速度の低速限界はご使用レンズの焦点距離によって変化します。ただし、Aレンズ以前のレンズ使用時は1/100秒固定となります。
5. ピントを合わせて撮影します。
- * カメラの露出モードがシャッター優先自動露出およびマニュアル露出でも、内蔵ストロボと同様に外付けストロボが使えます。[70ページ参照]
- * カメラの露出モードがシャッター優先自動露出、マニュアル露出のときは低速シンクロ撮影が可能です。[73ページ参照]
- * プログラム自動露出では、セレクトダイヤルを回すことによりプログラムシフトを行ない、シャッター速度と絞りの組み合わせを変えることができます。シフト可能な範囲は、シャッター速度が1/100秒以下で絞りが連動する範囲内です。ただし、低速シャッターにすることがありますので手ぶれにご注意ください。

ストロボ機能一覧

カメラの機能	TYPE A	TYPE B	TYPE C	TYPE D	TYPE E
ストロボ充電完了で、ストロボの同調速度に自動的に切り替わる。	○	○	○	○	○
プログラム自動露出、シャッター優先自動露出では絞りが自動セットされる。	○	○	○	○	
ファインダー内でオートチェックができる。		○	○		
TTLオートストロボ撮影ができる。	○	○	○	○注1	
シャッター優先自動露出、マニュアル露出では低速シンクロができる。	○	○	○	○	○
AFスポットビームが使える。		○	○		
後幕シンクロ撮影ができる。[注2]	注3	○	○		
光量比制御モードで撮影できる。[注2]		○			

TYPE A : 内蔵ストロボ

TYPE B : AF500FTZ[注4]、AF330FTZ

TYPE C : AF400FTZ、AF240FT

TYPE D : AF400T、AF280T、AF200T、AF080C、AF140C、AF200SA

TYPE E : AF200S、AF160、AF140

注1 : AF200SAは不可

注2 : 1/60秒以下になります。

注3 : TYPE BまたはCストロボと組み合わせて後幕シンクロ可能。

注4 : マルチストロボ、スレープ機能が働きます。

その他のストロボを使用した場合

* 他社製ストロボを組み合わせると、故障の原因になる場合があります。ペンタックス専用オートストロボの使用をお勧めします。

* TYPE D [AF200SAを除く] のストロボでMS [マニュアルシンクロ]、M [マニュアル] を使うときやTYPE Eのストロボを使うときは、ストロボの計算盤で求めた絞りに合わせて撮影してください。プログラムおよびシャッター優先自動露出では、絞りが変化してしまいますので使えません。

75

AF500FTZ

- 周りの明るさによってシャッター速度と絞りが変化しますので、日中シンクロ撮影にご利用いただけます。絞りとしシャッター速度の変化に関しては内蔵ストロボと同様です。[69ページ参照]
- 暗くてオートフォーカスの苦手な被写体でも、AFスポットビームを自動的に投光しますので、オートフォーカスを働かせることができます。
- オートズーム機構付きですから、レンズの焦点距離に対応して自動的に照射角度が変化します。
- スレープ機能[コードレス]がご利用できます。
- マルチ発光モードがご利用できます。
- 光量比制御モードがご利用できます。[77ページ参照]
- カメラがプログラム自動露出、シャッター優先自動露出、絞り優先自動露出であれば、ストロボのモードがマニュアルでも自動的にTTLオートになります。
- 充電完了後およそ3分以上放置したときは、ストロボの電源が自動的に切れます。カメラのシャッターボタンを半押しするとストロボの充電が再開されます。

AF330FTZ

- 周りの明るさによってシャッター速度と絞りが変化しますので、日中シンクロ撮影にご利用いただけます。絞りとしシャッター速度の変化に関しては内蔵ストロボと同様です。[69ページ参照]

- 暗くてオートフォーカスの苦手な被写体でも、AFスポットビームを自動的に投光しますので、オートフォーカスを働かせることができます。
- オートズーム機構付きですから、レンズの焦点距離に対応して自動的に照射角度が変化します。
- 光量比制御モードがご利用できます。[77ページ参照]
- カメラがプログラム自動露出、シャッター優先自動露出、絞り優先自動露出であれば、ストロボのモードがマニュアルでも自動的にTTLオートになります。
- 充電完了後およそ3分以上放置したときは、ストロボの電源が自動的に切れます。カメラのシャッターボタンを半押しするとストロボの充電が再開されます。

AF240FT、AF400FTZ

- 周りの明るさによってシャッター速度と絞りが変化しますので、日中シンクロ撮影にご利用いただけます。絞りとしシャッター速度の変化に関しては内蔵ストロボと同様です。[69ページ参照]
- 暗くてオートフォーカスの苦手な被写体でも、AFスポットビームを自動的に投光しますので、オートフォーカスを働かせることができます。
- カメラがプログラム自動露出、シャッター優先自動露出、絞り優先自動露出であれば、ストロボのモードがマニュアルでも自動的にTTLオートになります。
- 充電完了後およそ5分以上放置したときは、ストロボの電源が自動的に切れます。カメラのシャッターボタンを半押しするとストロボの充電が再開されます。

76

AF200T、AF280T、AF400T

- TTLオートモードで使用すると、周りの明るさによってシャッター速度が変化します[1/100秒~1/30秒]で、日中シンクロ撮影にご利用いただけます。なお、シャッター速度の低速限界はご使用レンズの焦点距離によって変化します。ただし、Aレンズ以前のレンズ使用時は1/100秒固定となります。
- 外光オート[赤・緑・黄位置]で使用すると、絞りは下表のように切り替わります。充電が完了すると、シャッター速度も1/100秒~1/30秒に変化します。なお、シャッター速度の低速限界はご使用レンズの焦点距離によって変化します。ただし、Aレンズ以前のレンズ使用時は1/100秒固定となります。

	AF200T	AF280T	AF400T
赤	F2.8	F4	F4
緑	F5.6	F8	F8
黄			F11

[ISO 100の場合]

ストロボ撮影[使用上]の注意

内蔵ストロボとペンタックス専用の外付けストロボを組み合わせて使用すると、充電完了した外付けストロボの機能が優先されます。撮影時は、各ストロボの充電の完了を確認してからシャッターを切ってください。

光量比制御シンクロ撮影

AF330FTZまたはAF500FTZとカメラの内蔵ストロボを組み合わせることで、二つのストロボの光量の違いを利用した増灯撮影[光量比制御シンクロ撮影]ができます。光量の比率は、内蔵ストロボが1に対して外付けストロボは2になります。

1. AF330FTZ、AF500FTZのシンクロモードを光量比制御モードにします。
 2. 両方のストロボの充電完了を確認してから撮影してください。
- * AF330FTZ、AF500FTZをカメラから離してご使用になると、光量比制御の効果が大きくなります。この場合には、別売りアクセサリーのホットシューアダプターF[AF330FTZでは2個]と延長コードF5Pをご利用ください。なお、ホットシューグリップなど接点数の異なるアクセサリーを組み合わせると、誤動作の原因となるので、使用しないでください。
- * 光量比制御シンクロ撮影では、シャッター速度の上限が1/60秒になる他は先幕シンクロと同様になります。

77

(11) アクセサリーについて

1) 専用アクセサリー[別売]

Z-50pには、各種専用アクセサリーが用意されています。詳しくは、各サービス窓口にお問い合わせください。

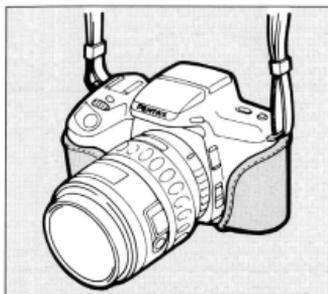
- ケーブルスイッチ F
Z-50P、Z-20P、Z-20、Z-1、Z-10、SFXN、SF7等
に使えるレリーズコード。
- マグニファイヤーFB
ファインダー中央部を拡大して見る接写用アクセサリー。
- オートストロボAF500FTZ
ガイドナンバー50のAFスポットビーム内蔵オートズームストロボ。スレープ機能、マルチ発光、光量比制御モードや先幕・後幕シンクロ撮影などが可能。
- オートストロボAF330FTZ
ガイドナンバー33のAFスポットビーム内蔵オートズームストロボ。光量比制御モードや先幕・後幕シンクロ撮影などが可能。
- ホットシューアダプターF、延長コードF5P
AF500FTZ・AF240FT・AF330FTZ・AF400FTZをカメラから離してストロボ撮影するときのアダプターとコード。
- AFアダプター1.7X
F2.8より明るいK・Kマウントレンズでオートフォーカス撮影するためのアダプター。
- マクロストロボAF140C
ガイドナンバー14の接写用ストロボ。

アクセサリーの注意

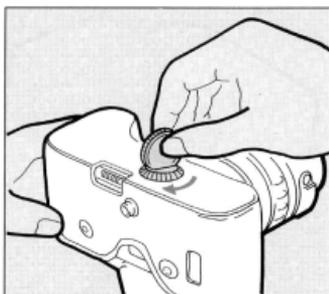
- 「オートベローズA」はダブルレリーズが使用できません。また、縦位置撮影のときは、カメラのグリップ側を上にしてください。
- 「PENTAX-F★300mm F4.5 ED [IF]」レンズの三脚座を使用してカメラを縦位置にすると、カメラのグリップ側を上にするとうる三脚取り付け座がカメラに当たることがあるので、縦位置にするときにはグリップ側を下にしてください。
- 「645レンズ用アダプターK」をボディに装着する際、アダプターの固定ネジの位置によってはボディに当たる場合がありますのでご注意ください。当たる場合は、固定ネジの位置を変えてから行ってください。
- レフレックス1000mm F11や2000mm F13.5レンズをボディに装着する際、レンズの縦横変換ロックネジの位置によってはボディに当たる場合がありますのでご注意ください。当たる場合は、ロックネジの位置を変えてから行ってください。
- 「オートストロボAF200T・AF280T・AF240FT・AF400FTZ」をカメラのホットシューに取り付けて使用する場合、カメラのTv/Avボタンあるいは電源スイッチの操作性が悪くなります。

78

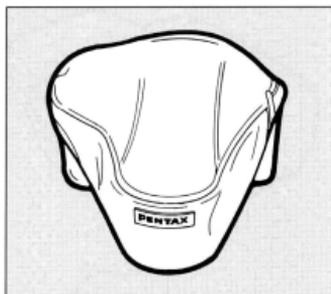
1



2



3



2) ソフトケース F_{CP}

ソフトケース[別売]は、バックケース[底ぶた]とフロントケース[前ぶた]からできています。

1. フロントケースを開いて、カメラをバックケースに入れます。

2. ケース下部の取り付けネジを、コインなどを使用して締め付けて固定します。

* フロントケースは、Z-10、Z-20 用と共通の F_cS、F_cM あるいは F_cL を使用します。

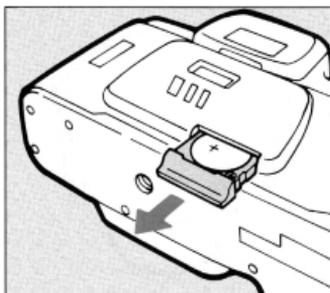
* バックケース F_{CP} は、ソフトケースの S、M、L に共通です。

フロントケースには、S、M、L の 3 種類があります。

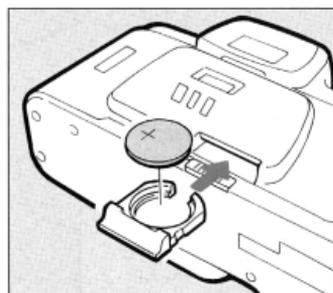
ケース	適合する F、FA レンズ
S	50mm / F1.4、F1.7、ズーム 35~70mm、ズーム 35~80mm など
M	ズーム 28~80mm、ズーム 35~105mm など
L	マクロ 100mm、ズーム 28~105mm、ズーム 70~200mm など

(79)

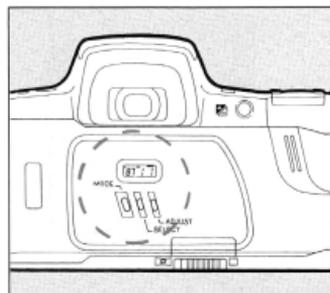
1



2



3



3) クォーツデートの電池交換

1. カメラの裏ぶたの電池ケースを矢印方向に引き抜き、電池を取り出します。

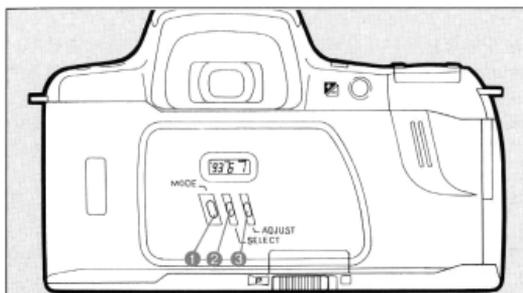
2. 新しい電池の+側を上にして電池ケースに入れ元の位置に「カチッ」と音がするまで差し込みます。

3. 電池を入れるとデータが表示されます。表示が出ないときは電池の+が正しく入っているかを確認してください。

電池交換後はクォーツデートのデータ修正 [日付および時刻の修正] を行ってから撮影してください。[81ページ参照]

* 電池は必ず、決められたリチウム電池 **CR2025** を 1 個使用します。

(80)



4) クォーツデートのデータ修正

- ① = **MODE** ボタン
- ② = **SELECT** ボタン
- ③ = **ADJUST** ボタン

データの修正方法

1. ②の **SELECT** ボタンを押すと数字が点滅します。押し直すと、点滅する位置が変わりますので、修正したい数字を点滅させます。
点滅の順番：年月日の表示のとき 年→月→日→時
時分表示のとき 時→分→：→
 2. ③の **ADJUST** ボタンを希望の数字が出るまで繰り返し押し、点滅させた数字を変更します。
- * **ADJUST** ボタンは、一回押すごとに数字が一つ進みます。押し続けると約2～3秒後からは早送りされます。
 - * データの修正を行うときは、コインなどを利用してください。

「年月日」の修正

1. ②の **SELECT** ボタンを押して、年月日表示のうち修正したい数字を点滅させます。
2. ③の **ADJUST** ボタンを押して、データを合わせます。
3. 修正後は、②の **SELECT** ボタンを押して、点滅を止めます。

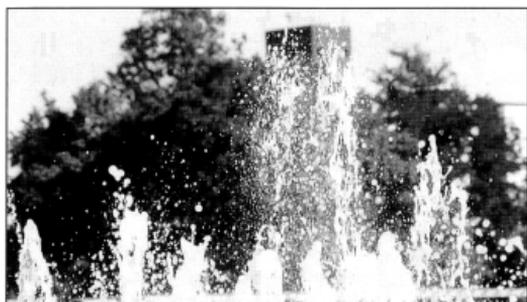
「日時：分」の修正

1. ②の **SELECT** ボタンを押し、時・分・「：」表示のうち修正したい数字[秒の場合は:]を点滅させます。
2. ③の **ADJUST** ボタンを押して、数字を合わせます。
3. 秒「：」を合わせるには、③の **ADJUST** ボタンを、時報などに合わせて押すと0秒になります。
4. 修正後は、②の **SELECT** ボタンを押して、点滅を止めます。

クォーツデート使用上の注意

- * 「年月日」と「日時：分」は同時には写し込めません。
- * デートの使用可能温度は約50℃～0℃ですが、低温下では、写し込まれる文字が薄くなる場合があります。
- * 使用できるフィルムは、感度がISO25～1600までのものです。感度のセットはカメラにDXフィルムを入れると自動的に合わせられます。
- * 高感度フィルム[ISO 1000以上]を使ったときは、写し込まれる文字がにじむことがあります。
- * ISO 50以下のフィルムは、フィルムにより写し込まれる文字が薄くなる場合があります。
- * 修正途中[点滅表示中]は、シャッターを切ってもデータは写し込まれません。
- * クォーツデートは、3Vリチウム電池 **CR2025** を使用しています。
電池の寿命は約3年です。写真のデータが薄くなったり、写らなくなった場合には電池を交換してください。なお、電池の交換は80ページをご覧ください。

(12) 絞りとシャッター速度の効果



高速シャッター



低速シャッター

写したい物[被写体]の明るさによって、適正露出を決めることは、シャッター速度と絞り値の組み合わせを決めることです。ところが、被写体が同じ明るさであってもシャッター速度と絞り値の組み合わせはいくつもあり、この組み合わせを選ぶことにより写真の効果を変えることができます。41 ページのプログラムシフトでは、この写真の効果を変えることができます。

シャッター速度の効果

シャッター速度は、光がフィルムに当たっている時間を長くしたり、短くしたりしてフィルムに当たる光の量を調節しています。

シャッター速度が遅ければ、シャッターの開いている時間が長いので、もし、このとき被写体が動いていれば、当然被写体がぶれてしまいます。逆にシャッター速度を速くすると、動きのある被写体でも動きを止めて写すことができます。また、被写体が動いていなくてもシャッター速度を速くすると、シャッターを切るときにカメラが動いてしまうカメラぶれを防ぐ効果もあります。また、川や滝、波などを低速のシャッター速度で写すと動感のある写真になります。



小絞り側



開放絞り側

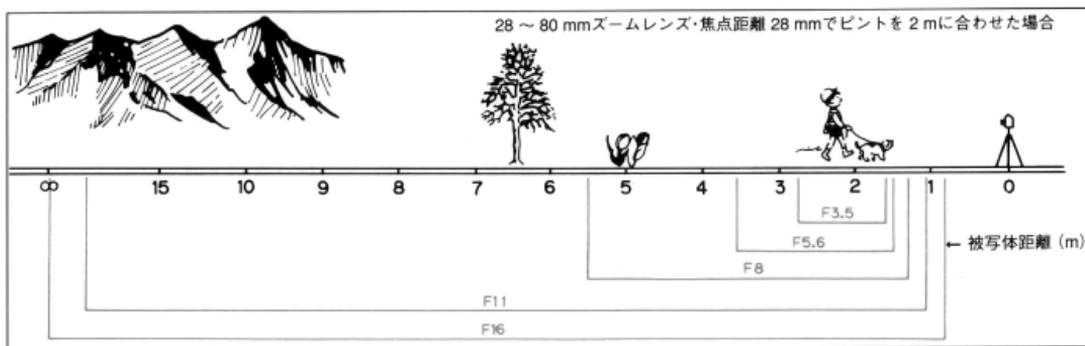
絞りの効果

絞りは、レンズを光が通るときに光束[光の太さ]を大きくしたり、狭くしたりしてフィルムに当たる光の量を調節しています。

絞りを開いて光束を広くすると、ピントを合わせた物に対してその前後の物のピントのずれが大きくなります。つまり、ピントの合う範囲[被写界深度]が狭くなります。逆に、絞りを絞って光束を狭くすると、ピントの合う範囲が広がります。

例えば、風景の中で人物を撮影するとき、絞りを開いて撮影すると、ピントを合わせた人物の前後の風景のピントがずれるため、人物だけが浮かび上がる効果があります。逆に、絞りを絞ると前後の風景にまでピントを合わせることができます。

(13) 被写界深度



被写体のある部分にピントを合わせると、その前後にもピントが合う範囲があります。この範囲を被写界深度といいます。

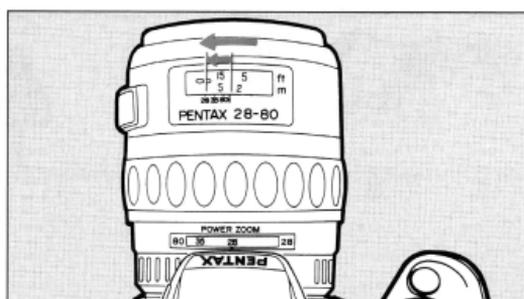
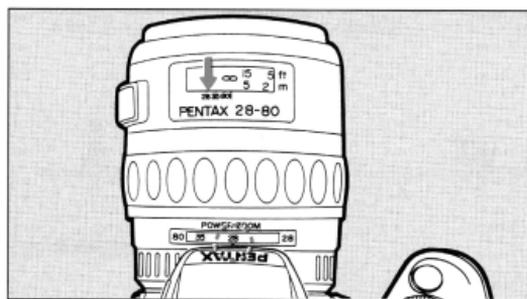
被写界深度[ピントの合う範囲]は、図のように絞りを絞り込むほど深くなりますが、この他にも広角レンズほど、また、被写体が遠くなるほど被写界深度は深くなります。

ピントの合う範囲

絞りを変えることによってピントの合う範囲[奥行]が変わります。

ズームレンズには機構上被写界深度目盛りは付いていません。

(14) 赤外線指標について



赤外線フィルムと「R2」や「O2」フィルターを使用し、赤外線写真を撮影するときは、一般撮影[可視光線]とピント位置が異なってくるため、ピントの補正が必要になります。オートフォーカスでは赤外線写真のピント補正ができません。一度普通にピント合わせをしてから、フォーカスモードレバーを **MF** にし、距離リングを赤外線指標の分だけ左に回して補正します。

図のように、焦点距離目盛りが28mmのときは、距離目盛りを28mmの赤外線指標[赤線]までずらします。

* 赤外線写真を撮影するときの露出は、フィルムの説明書を参考にしてください。自動露出では適正露出が得られませんから、マニュアル露出で撮影します。